

教員等業績一覧（2018年度）

○五十嵐泰正

【書評】

- ・ 武岡暢著『生き延びる都市―新宿歌舞伎町の社会学』（新曜社、2017）評、『日本都市社会学会年報』第36号、2018年9月、pp. 215－217。

【対談記事など】

- ・（藤原辰史との対談）『「原発事故と「食」」刊行記念対談 放射能汚染から考える成熟社会への課題―分断を越える「食」の可能性』『POSSE』39号、2018年7月、pp. 110－119。

【ウェブ記事】

- ・（インタビュー）『「原発事故と「食」」五十嵐泰正氏』『日刊ゲンダイ DIGITAL』2018年3月29日、<https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/book/226003>。
- ・（インタビュー）『「原発事故と「食」」五十嵐泰正インタビュー』『Web 中公新書』、2018年4月3日、<http://www.chuko.co.jp/shinsho/portal/105841.html>。
- ・（富永京子との対談）『「付度」か「炎上」か、言いたいことも言えない世の中は変えられるか』『「運動」への不信はなぜ増幅したのか』『WEDGE Infinity』<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/13522>, <http://wedge.ismedia.jp/articles/-/13524>。

【学会報告、講演など】

- ・（武田徹、小松理虔との鼎談）『7年後のいまをどう伝えるか』『ゲンロン主催イベント』ゲンロンカフェ、2018年4月25日。
- ・（藤原辰史との対談）『これからの食の結び方―原発事故から7年の思考』『SOCIALDIA』大阪社会福祉指導センター、2018年5月11日。
- ・（コーディネイター）『誰かを誘って福島に行こう！』『毎日メディアアカフェ』毎日新聞本社、2018年6月8日。
- ・『エリマネ@上野の可能性』『副都心上野まちづくり協議会』上野区民館、2018年7月25日。
- ・『山と街―近代日本の歴史の地層を歩く』『UENO YES 上野スタディーズ』東京文化会館、2018年7月30日。
- ・『意思決定における二重過程理論』『国際高校生放射線防護ワークショップ 2018』アクアマリンふくしま水族館、2018年8月7日。
- ・（コメンテーター）『シンポジウム 「第二」の大都市はどこに向かうのか』日本都市社会学会第36回大会、名古屋学院大学、2018年9月2日。
- ・『上野の地域イメージ／アイデンティティ形成』『第2回 上野まちづくりビジ

ョン会議まちづくり部会』上野区民館，2018年9月26日。

- ・「原発事故と「食」」『よみうり大手町スクール 著者と語る・サイエンス読書会』読売新聞本社，2018年10月5日。
- ・「上野地区のエリアマネジメントに向けて」『第3回 上野まちづくりビジョン会議まちづくり部会』台東区役所，2018年10月24日。
- ・「福島の海のいま－試験操業から資源管理型漁業へ－」『つくばSDGsマイスター講座』藝文学苑つくば教室，2018年11月2日。
- ・「市場の選択，社会の選択，個人の選択」『全体セッション 福島の今と未来 リスク学の今と未来』リスク研究学会第31回大会，コラッセふくしま，2018年11月10日。
- ・（コメンテーター）『Webプロジェクト〈Uen●Imperial Records〉って？』『わたしたちは（死んだら）どこへ行くのか』『ARTS TIME PROJECT って何？』上野恩賜公園野外ステージ，2018年11月24日。
- ・（コメンテーター）『移民の社会統合の理念と現実－後発国の比較研究』上智大学，2019年1月12日。
- ・（富塚絵美，椎原晶子との鼎談）「アートプロジェクトが立ち上がる土壌とは 谷中編」『TOKYO ART RESEARCH LAB』アーツ千代田3331，2019年2月13日。
- ・「福島の海のいま－試験操業から資源管理型漁業へ－」『つくばSDGsパートナー講座』筑波大学サテライトオフィス，2019年2月24日。

【メディア出演など】

- ・（スタジオゲスト出演）『荻上チキ Session22』TBSラジオ，2018年3月8日。
- ・（取材記事）「食の信頼回復に奮闘 粕で「野菜」 福島では「魚」 筑波大学院准教授・五十嵐さん」『毎日新聞千葉版』，2018年3月14日。
- ・（スタジオゲスト出演）『NHK東日本大震災音声アーカイブス～あれから，そして未来へ～』NHKラジオ第一放送，2019年6月9日。

○奥山敏雄

【論文】

- ・「死の受容と最後の成長——キュブラー＝ロスの死にゆく過程論の変容」『社会学ジャーナル』第44号，筑波大学社会学研究室，2019年，1－22頁。

○土井隆義

【雑誌論文】

- ・「少年刑法犯の動向と少年法の改正論議」『精神医療』90号，45～55頁，2018年4月，批評社
- ・「社会的格差の拡大と少年刑法犯の減少」『ケース研究』第332号，32～61

頁, 2018年6月, 家庭事件研究会

- ・「流動化する社会関係, 固着化する仲間集団」『情報教育ジャーナル』第1巻(第1号), 15~22頁, 2018年12月, 日本情報教育学会
- ・「相対的剥奪と逸脱行動-日本の少年非行はなぜ減少しているのか?-」『龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報』第8号, 25~31頁, 2019年3月, 龍谷大学矯正・保護総合センター

【書評論文】

- ・「前期近代から後期近代へー見田宗介『現代社会はどこに向かうか』岩波書店(2018)ー」『週刊読書人』第3255号, 第4面, 2018年9月7日

【学会報告】

- ・「〈つながり〉を煽られる時代-ネットコミュニケーションをめぐる光と影-」日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会「平成30年度大会」, 2018年11月23日, 首都大学東京秋葉原キャンパス

【その他】

- ・「シェアの時代における本の読まれ方」『子どもの本棚』596号, 19~21頁, 2018年6月, 日本子どもの本研究会
- ・「つながり過剰症候群-ともだち探しという明るい地獄-」『談』第112号, 33~54頁, 2018年7月, たばこ総合研究センター
- ・「10代の君への手紙」『道徳教育』第58巻(第7号), 84~85頁, 2018年7月, 明治図書
- ・「愛国ソング考-承認欲求満たす共通神話-」『北海道新聞』各自核論(7面), 2018年9月1日
- ・「居場所を求める「拡張現実」中日新聞社会部編『少年と罪-事件は何を問いかけるのか-』, 91~93頁, 2018年10月, ヘウレーカ
- ・「高齢者の万引-背後にある人間関係の欠如-」『北海道新聞』各自核論(7面), 2018年12月21日
- ・「SNSに生きる私たち」『朝日新聞』オピニオン&フォーラム 対論(15面), 2018年12月22日
- ・「スマートフォンの利用と若年層の人間関係」『Stress & Health Care』231号, 2~3頁, 2019年1月7日, パブリックヘルスリサーチセンター

○野上 元

【論文】

- ・「戦争映画の社会学のために-塚本版『野火』を題材として」『戦争社会学研究』(戦争社会学研究会)2号, pp.11-25, 2018年
- ・'Reexamining the Fear of the A-Bomb and the Imagination of Premonition', "Journal of Literature and Trauma Studies" (The University of Nebraska Press), 6(1), 2019 (in printing).

【学会発表】

- ・ 'Cultural Aspects of Postmodern Military in the Case of Japan Self Defense Forces', in the session of 'All-Volunteer Forces, Recruitment and Conscriptioin I' (RC01: Armed Forces and Conflict Resolution), XIX ISA World Congress of Sociology, 16 July 2018, Toronto.

【講演】

- ・ 「＜戦争と社会＞を考えるために－自由／平等／豊かさ」上智大学公開講座2018年度秋学期「戦争社会学講座：いま「戦争と社会」を考える」第9回，2018年12月20日

【その他】

- ・ 「特集によせて－メディア研究・ジャーナリズム研究における質的研究法の現在」『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）93号，2018年，p 2－4（特集趣旨文）
- ・ 「書評 石原俊『群島と大学－冷戦ガラパゴスを超えて－』」『ソシオロジ』63巻2号，2018年10月，pp. 149－156（書評と応答）
- ・ 「近現代史の社会学」光文社新書メールマガジン，vol. 97，98，101，103（メールマガ連載）

○黄 順姫

【著書】

- ・ 『身体文化・メディア・象徴的権力－化粧とファッションの社会学－』学文社，2019年3月，1－292頁。

【報告書】

- ・ 「高校間格差と同窓会・卒業生援助・支援の差異」『高校教員の教育観とこれからの高校教育』中央教育研究所，2018年，100－113頁。
- ・ 『キャリア・仕事の教育－参加型指導と実践例－』筑波大学教育社会学研究室，2019年3月，1－60頁。
- ・ 「高校格差再考－高校調査2017からの考察－」『日本教育社会学会第70回大会発表要旨』2018年，92－95頁。

【学会研究発表等】

- ・ 「高校格差再考－高校調査2017からの考察－」『日本教育社会学会第70回大会』佛教大学，2018年9月3日。
- ・ 「高校教師の今：中央教育研究所・2017年全国調査から－高校の学校間格差と同窓会・卒業生支援・援助の差異－」『第36回学校社会学研究会』，学習院大学，2018年8月24日。
- ・ 「産・学・官・海外協定校連携によるキャリアサポートとアクションリサーチ研究」『変動する社会に対処する個人，まち，研究』グローバル共存・共生特別公開ワークショップ，筑波大学，2018年12月19日。

- ・「平昌五輪とその社会的インパクト：メディアと地域社会の視点から」『日本スポーツ社会学会第28回大会シンポジウム』指定討論者，2019年3月9日，福岡大学（七隈キャンパス）

【その他】

- ・「若者のキャリア形成と文化一格差社会，男女格差，グローバル・グローカル社会で自分らしく生き抜くためには」開催：筑波大学人文社会系 人文社会科学部 科学研究科 社会・国際学群，共催：JICA 茨城（茨城県国際交流協会内），筑波大学，2018年5月24日，コーディネーター
- ・「キャリア・仕事の教育—参加型指導と実践例—」開催：筑波大学リサーチユニット「グローバル共存・共生」・筑波大学メンター会，後援：つくば市，つくば市教育委員会，つくば市ノバーホール，2018年10月19日，コーディネーター
- ・「変動する社会に対処する個人，まち，研究」『グローバル共存・共生』特別公開ワークショップ，開催：特設自由科目『グローバル共存・共生』，筑波大学，2018年12月19日，コーディネーター

○森 直人

【著書】

- ・『単元内自由進度学習は子どもに何をもたらすか——相互行為の視点から』竹内淑子ほか『自力解決を目指す自由進度学習の考え方・進め方』黎明書房，2019年2月。

【口頭発表】

- ・「教育社会学の立場から」社会政策学会労働史部会『『学歴と格差の経営史』合評会』，明治大学，2018年6月23日。
- ・「問題設定：学校内部に「居場所」を取り込む——多様なアクターによる実践の可能性と課題」日本教育学会第77回大会ラウンドテーブル，宮城教育大学，2018年8月30日。
- ・「「教育機会確保法」の歴史的展望——長く継続的な過程の一局面」日本教育学会・課題研究「義務教育を問い直す——「教育機会確保法」の成立をふまえて」，宮城教育大学，2018年8月31日。

○赤羽由起夫

【論文】

- ・「理解不能な動機の社会的構成——豊川主婦殺害事件（2000年）を事例として」『社会学ジャーナル』第44号，23-38，2019年3月，筑波大学社会学研究室。

【学会報告】

- ・「「心の闇」を理解する——『朝日新聞』記事の内容分析」関東社会学会第66回大会，自由報告，2018年6月9日，武蔵大学。

大学院生（国際公共政策専攻）業績一覧（2018年度）

○岡村逸郎

【学会報告】

- ・岡村逸郎「犯罪・非行からの立ち直り言説に関する歴史的検討」日本犯罪社会学会第45回大会，自由報告C第1報告，西南学院大学，2018年10月20日。

【論文】

- ・岡村逸郎，2018，「犯罪被害者支援に携わる法学者の専門性とそのジレンマ——Restorative Justiceをめぐる複数の専門職集団の依存関係に注目して」『年報社会学論集』31：12-23。

○高口僚太郎

- ・「寛解者の「生きづらさ」——ターナー症候群症例の社会学的考察」『社会学ジャーナル』第44号，53-62，2019年3月，社会学研究室。

○秋本光陽

【論文】

- ・秋本光陽，2018，「ハワード・ベッカー『アンダードッグの社会学』再考」『年報社会学論集』31：84-95。
- ・秋本光陽，2018，「戦後黎明期少年司法における科学主義の開拓とその実践」『社会学評論』275：373-389。

○野上 亮

【学会報告】

- ・「北九州大学文学部設置への期待と帰結—教員・自治体・学生の側面から—」第91回日本社会学会大会一般研究報告，甲南大学岡本キャンパス，2018年9月15日。

○佐藤知葉

【学会報告】

- ・「学校給食の歴史社会学」関東社会学会第66回大会，自由報告，武蔵大学，2018年6月10日
- ・「学校給食の歴史社会学——近代日本における〈集団的な食生活〉への問い」日本社会学理論学会第13回大会，修論フォーラム，愛媛大学，2018年9月2日
- ・「『食べる』ことの社会学に向けて——摂食障害者の語りにおける食事の実践と知識の関わりから」日本社会学会第91回大会，一般研究報告，甲南大学，2018年9月15日

【研究ノート】

- ・「〈教育〉としての学校給食——1920～1930年代の言説に着目して」『社会学ジャーナル』第44号、筑波大学社会学研究室、2019年3月

○丁 名揚

【学会報告】

- ・「学歴社会の中国にみる「素質教育」の課題」第36回学校社会学研究会、2018年8月24日、学習院大学
- ・「中学校校差与教育質量公平的研究」中国社会学会教育社会学専門委員会2018年学術会、2018年10月13日、哈爾濱師範大学
(日本語翻訳版)「高等学校格差による教育質の不平等問題」中国社会学会教育社会学専門委員会2018年度の学術会、2018年10月13日、哈爾濱師範大学

○目黒 茜

【論文】

- ・「近代「女医」による性的啓蒙——1920～30年代の婦人雑誌における竹内茂代の言論に着目して——」『ジェンダー研究』第21号、東海ジェンダー研究所(2019年3月)

【学会報告】

- ・「近代女医の歴史社会学的検討—戦前の性問題における女医の啓蒙活動を中心に—」関東社会学会第66回大会、一般報告、武蔵大学、2018年6月10日。
- ・「女医の歴史社会学——戦前における女医の啓蒙活動を中心に」日本理論社会学会第13回大会、修論フォーラム、愛媛大学、2018年9月1日。
- ・「「女医」の社会学的想像力—1930年代前後の「女医」の啓蒙言説を事例として—」日本社会学会第91回大会、一般報告、甲南大学岡本キャンパス、2018年9月15日。

【その他】

- ・「近代「女医」の啓蒙活動」東海ジェンダー研究所2018年度個人助成受託者報告会、東海ジェンダー研究所、2018年7月7日。
- ・(リレートークコメント)「生きづらさを抱える女の子たちの心と身体を守るには？性の健康の課題を語ろう！」、NPO法人ピルコン主催院内勉強会、衆議院第一議員会館、2018年12月7日。
- ・平成30年度一般財団法人山根奨学基金採択